

令和6年度 わかば保育園 「職員自己評価」

1 自己評価

A…十分達成されている B…達成されている C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価			
		A	B	C	D
方針理解	1 園の保育・教育目標、本年度の重点目標を理解して取り組んでいる。	19	57	19	5
保健管理	2 日常の健康観察や、疾病予防のため細心に注意をしている。	29	62	9	
安全管理	3 事故やケガ等発生時に危機管理マニュアルを生かして対応している。	10	90		
組織運営	4 園長は目標の達成に向け、職員をサポートしながらリードしている。	71	29		
	5 系の活動では内容の充実を図るために連携して、取り組んでいる。	18	64	18	
研修	6 園内研修では、指導者としてのあり方を我が身に寄せて考え、日々の保育に生かすことができた。	27	47	20	6
園児捉え	7 日々の保育を振り返りと課題を明確にしている。	20	45	30	5
情報提供	8 クラスや園の情報を保護者や地域に的確に伝えることに配慮している。	19	48	33	
連携	9 保護者や地域と連携して保育をしようとしている。	24	52	24	
保育環境	10 子どもの成長に即した教育環境になるよう工夫を重ねている。	5	60	35	
クラス活動	11 本園の大事にしている「豊かな感性を育む」ための活動を、子どもの意識と保育士の願いを生かして取り組んでいる。	15	60	25	

2 今年度の自分の取組・園の取組を振り返ったとき、良かったと思えること、課題は何ですか。

(1) 自身の取組・保育を振り返って

- ・子ども達の日々の変化や成長、発見やつぶやきに気づき、認め褒める保育を心掛けている。今後も自身の“気づく目”を培っていききたい。子ども達のキラッとをみつけながら保育していききたい。
- ・一人ひとりに寄り添いたい気持ちがあるが、余裕なく子どもを焦らせてしまうことがあるので、気持ちに余裕を持って保育したい。
- ・子ども・保護者との信頼関係を築き、大切にしていきたい。
- ・今年度は子どもがやってきたい!と考えたことをなるべく実践することを心掛けるようにした。アイデア豊富な子どもたちの考えを活かすことができた。
- ・子どもの成長にどう関わっていけばよいのかを一つ一つ考えながら保育にあたり、悩む時間が多かった。
- ・系の活動では他園のやり方を聞きながら、いろいろなアイデアを取り入れ今までとは少し違った活動を行うことができた。

(2) 園の取組を振り返って

<研修・行事>

- ・諏訪地区の保育研究集会・フィールド研修・職員研修・園内研等様々な視点から必要な研修を受け、見直しや振り返りをする良い機会となった。
- ・写真を用いての研修を行うことで、子どものどんな学びや育ちに繋がっているのか理解を深めることができた。また、日々子どもたちがどんなことに興味を持って、面白いとおもっているのかを子どもの目線になって考えるようになった。
- ・もちつきや繭玉作り等食べる経験が出来なくなっている中で、職員間で話し合い新しい取り組みを考えることができた。毎年反省しながらより良くなるよう進めていきたい。
- ・絵本研修では、違うクラスに行って絵本を読むことで自分の勉強になり、子ども達も楽しみにしてくれて良かった。
- ・年長の行事の中で子どもたちの“やりたい”の思いをできる限り実現し、子ども主体に発表や取り組みが出来たことが大きな成果。幼児期の子どもたちもみんな考え、知恵を出し合い、これだけのことができる“子どもたちの力”に感動した。

<畑>

- ・様々な気づきや発見、食育との繋がりが良い経験となっている。また地域の方々との関りもあり有り難いが、今後の取組を考えていきたい。
- ・お米作りをする中で、機械を使わずに代掻き田植え、稲刈りを行ったことが、子ども達にとっても職員にとっても良い経験になった。

3 来年度、園として、個人として取り組んでみたいこと、取り組んで欲しいことは何ですか。

<保育>

- ・小学生～高校生まで多く交流ができるようになってきたので、地域の方との交流の機会も考えたい。
- ・異年齢で1日を過ごす。また、未満児も異年齢交流に参加する機会もあると良い。

<環境・畑>

- ・様々な制限がある中で、園の特色である畑の取組み。
クラス単位で畑を区切り、自分たちの畑として取り組む。
- ・ひまわり迷路は花の咲く時期が短いので、長く咲く百日草でやってみても面白いのでは。
- ・応援隊の方々の名前と顔写真があれば、嬉しい。
- ・室内環境作り
- ・園庭の環境作り 小屋の設置・ブランコの利用について検討

来年度への展望（案）

(1) 本園のよさ

- ①子ども一人ひとりのよさ（気づきや発想・取組など）に着目して、子どもに寄り添った保育をしようとしている。そのことで、子どもが自己肯定感をもって主体的、意欲的、創造的に活動をしようとしている。
- ②地域や保護者の方が園の願いを理解して、園運営に協力をしていただき、子どもの育ちを積極的にバックアップしていただいている。

- ③自分の受け持っている子どもと主体的な活動・創造的な活動をしようと、保育士自ら意欲的に取り組もうとしている。また、活動を振り返る際に“幼児期の終わりまでの育ってほしい10の姿”を用いるようにしている。
- ④外部の研修から学んだことをわかば保ではどう取り組めるか考え、創意工夫をした環境設定や取組をしようとしている。

(2) 課題への対応

園の保育・教育目標（「相手意識」「本物」「共感」）や幼保連携型認定こども園 教育・保育要領が示す「育てたい10の姿」を意識しながら、子どもに豊かな感性が育つ遊び・暮らしを充実させたい。

- ①「子どもに寄り添う」子どもの心の動きに気づける保育を進めるにはどうしたらよいか？
「自由」と「放任」は違う。子どもを好き勝手にすることではない。
「支援を要する子ども」への支援の仕方 「個」と「集団」
「子どものきらっと写真」やドキュメンテーションの掲示により、職員も保護者も子ども理解を深める。
- ②「育てたい10の姿」を意識して、環境を設定や関わり方をどう創り上げていけば良いか？
- ③勤務改善をする中での「飼育」「栽培」の活動を充実させるにはどのように取り組めばよいか？
ぽかぽか畑・田んぼでの栽培を充実させつつ、安全面を考慮しての取組みの具体案を考える。
- ④「自由遊び」の時間での、環境設定をどのようにしていけばよいか？
- ⑤行事の見直し
今後も、行事の内容を見直しながら、新しいスタイルの行事を作り出していきたい。
- ⑥保育の魅力を感じ取り、やりがいを持って過ごせるようにしたい。
※ 園内研修の充実 諏訪郡内3園との連携
※ 保育者自身自己肯定感が持てるように、お互いの良さ認め合い、情報交換をしていきたい。
学年・立場・年数等にとらわれずにお互いのコミュニケーションを図っていく。
- ⑦給食室との綿密な連携と情報交換により、安全でおいしい給食の時間に。
※ 畑の野菜を有効に活用して、食育につなげたい。
※ 「アレルギー食」「離乳食」への丁寧な配慮
※ 栄養士による栄養指導



令和7年度

自然に親しもう 人との関わり・異年齢交流の充実 環境設定の見直し

豊かな感性（探究心、創造性、表現力）の育成を目指す